

令和6年度事業報告 <主な事業等の概要>

社会福祉法人足利むつみ会

1、法人

本会は、社会福祉法第22条の規定に基づいた社会福祉法人として、多様な福祉サービスがその利用者の意向を尊重して総合的に提供されるよう創意工夫をすることにより、利用者が個人の尊厳を保持しつつ、心身ともに健やかに育成され、また、その有する能力に応じ、自立した日常生活を地域社会において営むことができるよう支援することを目的に事業を行いました。

なお、事業実施にあっては、次の実施項目を中心に、障害分野では障害福祉サービスを通じて、障害者の「生活」や「就労」に対する支援の充実や、障害児支援のニーズの多様化にきめ細かく対応するとともに、高齢分野では特別養護老人ホーム青空において、多様なニーズを包含して介護を必要とする高齢者に対する生活全般の支援に努めました。また、児童分野ではふくい保育園において、子どもの最善の利益を最優先に保育に努めるとともに、家庭と連携した子育て支援や地域との連携に努めました。さらに、SDGs（持続可能な開発目標）達成への貢献の取組を継続して行うとともに、法人設立40周年を迎えたことから、実行委員会を立ち上げ、記念式典等の事業を行いました。

<実施項目>

- | | | |
|-----------------|-------------------|------------------|
| (1) 経営組織・基盤の強化 | (2) 法人理念等の周知、法令遵守 | (3) サービスの質の向上 |
| (4) 施設、設備等の改善 | (5) 人事管理の充実 | (6) 財務管理、財務規律の強化 |
| (7) 事業経営の透明性の確保 | (8) 地域福祉の推進 | |

2、施設・事業所

社会就労センターきたざと（生活介護事業・就労継続支援事業A型・B型・就労移行支援事業・就労定着支援事業）

(1) 生活介護事業

作業工程の細分化を図り、利用者の特性に配慮しながら作業に取り組める環境を作ることで、利用者が作業に携われる作業の幅を増やせるよう支援を行いました。また、週1回のオンライントレーニングを継続し、日々の実践的トレーニングに活かし身体機能の維持・向上に努めました。また、課題となっていた作業が難しい方への支援については、エコ活動とともに新たにアート活動を始め、興味の探求へとつなげ、活動の幅を広げられるよう取り組みました。

(2) 就労継続支援A型事業

利用者が自立した日常生活又は社会生活を営むことができるよう、雇用による就労の機会を提供するとともに、その知識及び能力の向上のために必要な訓練その他の便宜を適切かつ効果的に行いました。

なお、就労の機会の提供にあたっては、利用者の希望に沿った労働時間を設定することに努めました。

(3) 就労継続支援B型事業

利用者が自立した日常生活または社会生活を営むことができるよう、利用者の就労に対する支援として、生産活動の機会を提供するとともに、その知識及び能力の向上のために必要な訓練その他の便宜を適切かつ効果的に行いました。また、施設外就労や施設外の作業にも積極的に取り組みました。

重点的な取り組みとして、それぞれの事業において収入アップを目指し受注量の確保等に取り組むなどにより、本年度の工賃目標額を上回ることができました。また、作業や業務の効率化、利用者のステップアップを図るため、作業を構造化し、それぞれのステップに沿って課題等を明確にしながら目標達成に向けた支援に努めました。

(4) 就労移行支援事業

利用者が自立した日常生活又は社会生活を営むことができるよう、利用者に対して、2年間にわたり生産活動その他の活動の機会を通じて、就労に必要な知識及び能力の向上のために必要な訓練その他の便宜を適切かつ効果的に行いました。

(5) 就労定着支援事業

利用者が自立した日常生活又は社会生活を営むことができるよう、就労に向けた支援として、企業等に新たに雇用された障害者に対して、3年間にわたり、当該通常の事業所での就労の継続を図るために必要な当該通常の事業の事業主、障害福祉サービス事業者等その他の者との連絡調整その他の支援を適切かつ効果的に行いました。

重点的な取り組みとして、オンライントレーニングでは、毎週のトレーニング以外にもイベント（運動会）を開催する中で、オリジナルTシャツを作成し、楽しく活動を実施しながら身体機能の維持・向上を図り、リフレッシュできるよう努めました。

セルプ絆（就労継続支援B型事業）

利用者が自立した日常生活または社会生活を営むことができるよう、利用者の就労に対する支援として、生産活動の機会を提供するとともに、その知識及び能力の向上のために必要な訓練その他の便宜を適切かつ効果的に行いました。また、地域生活の安定と充実を図るため、社会資源との連携を行い、日常生活支援、就労移行支援、及び余暇活動支援など総合的な福祉サービスの提供に努めました。

重点的な取り組みとして、製造製品事業において、商品の陳列や丁寧な接客、販促活動などに積極的に取り組み、販売力の強化に努めました。また、工賃向上に向けて、生産コストの上昇分を価格転嫁し、パンの販売価格の見直しに取り組み、本年度の工賃目標額を上回ることができました。

セルプみなみ（生活介護事業・就労継続支援事業B型）

(1) 生活介護事業

利用者が自立した日常生活又は社会生活を営むことができるよう、利用者の状況に合わせた日常生活上の支援及び生産活動の機会の提供を行いました。なお、生産活動では利用者一人一人の特性や能力に合わせ作業工程を細分化し、安定して作業に携われるように努めました。

(2) 就労継続支援B型事業

利用者が自立した日常生活及び社会生活を営むことができるよう様々な生産活動の機会を提供し、清掃作業では作業工程を細分化し、利用者の作業能力の向上に努めるとともに、3月から新たな施設外就労に取り組み、より高い工賃の支払いに努めました。

また、生産活動を通じて、一般就労に必要な知識及び技能の向上を図り、一人一人の能力や希望に沿って適切な作業提供及び支援を行うとともに、利用者の意思及び人格を尊重し、常に利用者の立場に立ってサービスの提供を行いました。

重点的な取り組みとして、事業所内部研修では心肺蘇生法についてスペシャルラーニングや実際にAEDを使用するなどして学び、支援の質の向上に努めました。また、工賃向上に向けて、経費の削減、価格の見直し等、更には新たな仕入れ商品の販売にも取り組み、本年度の工賃目標額を上回ることができました。

デアクティビティセンターWIN（生活介護事業）

「デアクティビティセンターWIN」には、WINグループ及び銀河グループの2つのグループがあり、それぞれの特色を生かした活動・支援を行ってきました。WINグループでは、日常生活支援を中心としながら、時間を区切って全体でのレクリエーション等の活動を進め、利用者の反応を確認し、活動の評価・検討を行いながら活動の幅を広げました。また、軽運動やマッサージ、スヌーズレンの利用等、個々の状況に応じた活動を個別活動として行うとともに、創作的な活動としては、多くの利用者が関わる共同での貼り絵や個別での作品作りを行い、出来上がった作品を部屋に飾り、作品展への出展もしました。

銀河グループでは、EMボカシ作りや再生紙作り等の作業的な活動とレクリエーションや音楽活動等の余暇活動を組み合わせて行いました。なお、レクリエーションについては、利用者の意見を取り入れながらバリエーションを増やし、参加意欲の向上を図るとともに、「オンライントレーニング」では、トレーナーとの定期的なミーティングにより、利用者の状況を共有し、新たなトレーニングの提案が生まれ、積極的に参加される方が増え、楽しみながら身体を動かす活動として定着し効果を上げることができました。

なお、行事関係では、季節ごとの行事を普段とは違った雰囲気を楽しめるよう工夫し、実施しました。

重点的な取り組みとして、利用者の安全・安心の生活、肯定的な交わりの感情の構築のため、ジェントルティーチングの手法を学び、実践することで支援の質の向上を図るとともに、公開ワークショップに参加し、事業所内で伝達研修を行いました。また、活動内に体操、トレーニング、散歩等を取り入れることで、身体機能の維持・向上を図りました。感染症対策のために自粛していた外出活動については、散歩やドライブ、初詣等グループ分けをし、少人数での実施から再開しました。

グループホーム ドナルド（共同生活援助）

利用者が地域において共同して自立した日常生活を営むことができるよう、当該利用者の身体及び精神の状況並びにその置かれている環境に応じて相談や入浴、排泄又は食事の介護その他の日常生活上の援助を適切に行ないました。また、居宅においてその介護を行う者の疾病やその他理由により、障がい児者に緊急的に支援が必要な状況になった場合、短期間の入所の受入れを行い、入浴、排せつ及び食事の介護やその他の必要な支援を行う「足利市あっしーネット緊急時支援事業」について、緊急時対応ができるよう受け入れ態勢とともに、環境整備等を行いました。

重点的な取り組みとして、利用者がグループホームでの生活を楽しいと思えるよう、支援及び活動の充実を図りました。利用者が楽しく過ごせるようなイベント、食事等の検討を行い、“笑顔が飛び交う明るいグループホーム”を合言葉に活動提供を行いました。

ビタミンクラブ（放課後等デイサービス・児童発達支援・保育所等訪問支援）

当事業所は、障害を持つ児童が日常生活における基本的動作を習得し、集団生活に適應することができるよう、身体及び精神の状況並びに、その置かれている環境に応じて適切な支援及び訓練を行うことを主目標とし、怪我や事故等の無いようにサービス提供を行ってきました。利用者の個性や人格を尊重し、一人一人のニーズに合わせ、感染症対策に留意しながら、運動・創作・音楽等様々な要素を取り入れた日々の活動、公文式学習、土曜日の月替わりのイベントなど、日常生活支援、集団生活適應支援等を遊びや活動を通して行い、個々の自立に向けたきめ細かな支援を行うとともに、利用者が住み慣れた地域で安心して暮らせるための支援を行いました。

また、より良い支援が継続して行えるよう、職員間で話し合い検討し、各種支援に繋げていきました。

令和6年11月より新たに「児童発達支援事業」・「保育所等訪問支援」を開始。

児童発達支援事業では就学前の児童に対し障害特性にみられる得意、不得意をしっかりと把握した療育。また、年齢に応じた身辺自立（ADL）等の基本的な支援を行いました。

保育所等訪問支援事業では訪問支援員が保育所等を訪問し、集団生活への適應のために専門的な支援を行いました。

日中一時支援事業 スマイル（日中一時支援事業）

障害（児）者の健全な育成と家族の介護負担の軽減を図ることができるよう、当該障害（児）者の身体及び精神の状況並びにその置かれている環境に応じて、利用者の必要な時に必要なサービスを適切かつ効果的に提供できるように努めました。また、地域との結びつきを重視し、利用者の所在する市町村、他の障害福祉サービス事業者その他の保健医療サービス及び福祉サービス事業者などの関係機関との連携に努めました。

足利むつみ会障害者相談支援センター（指定相談事業所）

（1）指定特定相談支援事業・指定障害児相談支援事業

指定特定相談支援事業・指定障害児相談支援事業として生活全般に係る相談及びサービス利用計画の作成を行い、利用者が、地域で安心して暮らすことができるよう継続的な支援を行いました。

本年度は、指定一般相談支援事業における地域移行支援及び地域定着支援及び指定自立生活援助事業に関する相談は皆無でした。

また、引き続き足利市から足利市地域生活支援事業における基幹相談支援事業を社会福祉法人 愛光園、医療法人 孝栄会と共同受託し、事業を実施しました。

重点的な取り組みとして、行動障害や精神障害者の支援体制を整え、相談支援センターとしての責務を

果たし事業運営に取り組みました。また、基幹相談支援センターと連携し、困難ケースの受け入れ及び対応に努めました。また、地域の相談支援体制の強化や地域づくりの推進に努め、安足地区相談支援事業者等連絡会に参加し、研修の企画や開催などの事業運営の向上に努めました。

(2) 基幹相談支援事業

足利市からの委託を受けて、市から派遣されたセンター長 1 名及び市内 3 法人 4 名の相談支援専門員により、相談業務（生活全般に係る相談及びサービス利用における相談等）、障害者自立支援協議会の運営、市内の各相談支援事業所のスーパーバイザーとしての業務を行うとともに、地域生活支援拠点事業における緊急短期入所事業（足利市あしーネット）の運営を行いました。また、事例検討会を開催し困難事例の検討を行うとともに、特別支援学校の進路相談会や個別ケースの対応支援や各事業所のケア会議、地区の民生委員・児童委員の会議や地域包括支援センターの会議等に参加協力し、また、医的ケア児コーディネーターとして業務展開するなど相談支援の向上に努めました。

両毛圏域障害者就業・生活支援センター（就業・生活支援センター）

障害者からの相談に応じ、就業及び日常生活上の問題に関する指導・助言等を行うほか、職場定着促進のため、事業主に対して必要な助言等を行うとともに、関係機関との連携等を図りました。支援対象障害者数 1,028 人に対し、相談支援件数 1,911 件、就職件数 46 件、職場実習あっせん件数 23 件となりました。事業主に対する助言は、支援対象事業所数 141 事業所の 1,023 件でした。

また、在職者の交流活動を 3 回実施し、交流会開催時にピアサポート活動を同時に開催しました。

重点的な取り組みとして、障害者職業総合センターにおける就業支援担当者研修を受講し、就業支援担当が担う業務に必要な知識や技術の習得を図りました。地域で開催される障害者支援に係る研修に出席し、支援力向上に努めました。

特別養護老人ホーム青空（特別養護老人ホーム・短期入所生活介護事業・認知症対応型通所介護事業・居宅介護支援事業・障害短期入所事業）

重点的な取り組みとして、利用者の安心安全な生活を維持するため、感染症対策を実施し、新型コロナウイルス感染症等の感染予防、まん延防止に努めるとともに、職員への周知、防護服の正しい着脱方法、消毒方法、介助方法、ソーニングなどの研修を実施し、必要物品の充実を図りました。また、利用者とともに職員の健康管理を行い、体調不良者の早期把握による感染対策に努めるとともに、季節ごとの行事やレクリエーションを実施し、憩いの場の創出や生活の質の向上に努めました。

(1) 特別養護老人ホーム

施設サービス計画に基づき、可能な限り、居宅における生活への復帰を念頭に置いて、入居前の居宅における生活と入居後の生活が連続したものとなるよう配慮しながら、各ユニットにおいて入居者が相互に社会的関係を築き、自立的な日常生活を営むことを支援しました。

(2) 短期入所生活介護事業（障害短期入所事業含む）

介護予防を含め、利用者が可能な限りその居宅において、その有する能力に応じ、自立した日常生活を営むことができるよう、入浴、排泄、食事等の介護、その他の日常生活上の世話及び機能訓練を行うことにより、利用者の心身の機能の維持並びに利用者の家族の身体的及び精神的負担の軽減を図るよう努めました。

(3) 認知症対応型通所介護事業

介護予防を含め、認知症があっても、可能な限りその居宅において、その有する能力に応じ自立した日常生活を営むことができるよう生活機能の維持、向上を目指し、必要な日常生活上の支援及び機能訓練を行うことにより、利用者の社会的孤立感の解消及び心身の機能の維持並びに利用者の家族の身体的及び精神的負担の軽減を図るよう努めました。

また、市、居宅介護支援事業者、在宅介護支援センター、地域包括支援センター、他の居宅サービス事業者、保健医療サービス及び福祉サービスを提供する者との密接な連携に努めました。

(4) 居宅介護支援事業

利用者が可能な限りその居宅において、その有する能力に応じ自立した日常生活を営むことができるよう配慮するとともに、利用者の心身の状況、その置かれている環境等に応じて、利用者の選択に基づき適切な保健医療サービス及び福祉サービスが、多様な事業者から総合的かつ効率的に提供されるよう配慮しました。また、利用者が所在する市町村、在宅介護支援センター、地域包括支援センターなどの関係機関との連携に努めました。

ふくい保育園

普通の保育はもとより、地域子育て支援拠点事業、特別保育として「食物アレルギー対応、給食提供事業、延長保育事業、一時預かり、地域活動等事業、すこやか保育事業」を実施し、家庭と連携した子育て支援や子育て相談、そして、小学校、地域との連携に努めました。また、保育園に入園を希望する児童数も増加しており、多様化した保育ニーズへの対応に努めました。

重点的な取り組みとして、園児の保育園生活の安全・安心を最優先に考え、事故防止や感染症対策に努めました。保護者には、ICT システム「コドモン」を利用して、行事案内や給食の献立など必要な連絡を密にしながら、より良い信頼関係を築けるように努め、卒園生や地域の方々との交流を大切に、小学生、シニアクラブの会員、特別養護老人ホーム青空の利用者、自治会等との連携を図り、日々の保育の質の向上に努めました。

キッズピアあしかが (公益事業)

(1) キッズピアあしかが

単なる屋内子ども遊び場としてではなく、子どもの運動機能向上や子育て世代の交流の場となるような機能を備える施設を目的に運営を行いました。感染症に対する感染予防を実施し、安心・安全に利用できるように努めました。

重点的な取り組みとして、設立 10 周年記念として、来場者及び関係者の方々へのイベントを計画し、12 月 8 日にセレモニー及び縁日イベントを開催しました。予定していたマットの劣化が進んでいる箇所（スーパーノヴァ周辺）の入替は行わず、次年度メンテナンスを行う調整を行いました。

(2) 子ども映像メディアアート

足利市が屋内子ども遊び場「キッズピアあしかが」(以下「キッズピアあしかが」という。)の施設内に設置する「子ども映像メディアアートブース」(以下「メディアアートブース」という。)の業務を受託して運営するもので、「キッズピアあしかが」を利用する子どもたちの健全育成及び子育て世代への支援の更なるツールとして、「学び」「遊び」「地域との絆の体感」をコンセプトに、子どもたちが楽しみながら学びや遊びができる映像体験型プログラムを展開し、子育て支援の充実とともに、足利市が推進する映像のまちとしてのイメージアップを図ることを目的に運営しました。引き続き、新型コロナウイルス感染予防を行い実施するにあたり、一部設置場所を変更し、十分な距離を保ち実施できるコンテンツに限定し運営をいたしました。